

特定非営利活動法人  
日本リザルツ

# 平成29年度 事業報告書

日本リザルツ  
平成30年3月5日作成

10  
OCTOBER



2017年10月01日

### グローバルフェスタ（写真編）

9月30日、10月1日はグローバルフェスタ。その様子を写真満載でお届けする。



Gavi の重要性を訴える。

UNRWA さんの新パンフレットも大量に配布した。

栄研化学さんのウェットティッシュは大人気！



電通さんのバッグも配布した。

栄養の重要性についても周知した。

### グローバルフェスタ（ブース行脚篇）

9月30日、10月1日はグローバルフェスタ。集客戦隊リザルツレンジャーの長坂は、大使館、企業、国際機関、NGO・NPOの全ブースを行脚し、GGG+フォーラムの周知活動を行った。

10月1日はインターの浅松も一緒に、その活躍ぶりはこちらの写真をご覧ください。



気さくで可愛いイエローカラマツは大人気！GGG+フォーラムの参加者もどんどん増えること間違いないし。そんな GGG+フォーラムの参加、まだまだ受け付けている。残席が 20 数席となっているので、早目のご登録をお願いしたい。皆様の積極的なご参加をお待ちしている。また、ご関心のありそうなお知り合いの方々にも、ぜひご共有いただきたい。

詳細：

GGG+フォーラム 2017： UHC と SDGs の実現に向けて ※参加費無料

日時：

2017 年 10 月 10 日（火）

式次第：

11:00-12:50 第 1 部：GGG、ポリオ、CEPI、栄養

12:50-13:10 軽食タイム

13:10-14:10 第 2 部：2030 年マラリア制圧へ向けた日本の貢献

14:10-15:30 第 3 部：水と公衆衛生、トイレ、子ども・女性

（変更あり）

会場：ルポール麹町

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-3

TEL 03-3265-5361

有楽町線「麹町駅」 1 番出口より徒歩 3 分

## グローバルフェスタ 2 日目 皆様、ご来場ありがとうございました！

天気に恵まれて晴天の空の下、昨日に引き続き日本リザルツはお台場のグローバルフェスタに参加している。日本リザルツのブースには、小さなお子様から大学生、様々な企業や団体の皆様がお越しくださり、ケニアの子どもたちの運動靴のプロジェクトや、UNRWA キャンペーン事務局としての活動、らぼーる事業など日本リザルツの活動を知っていただく非常に貴重な機会となつた。さて、来週は GGG+フォーラムが開催される。日本リザルツは皆様のご来場ご参加を心よりお待ちしている。

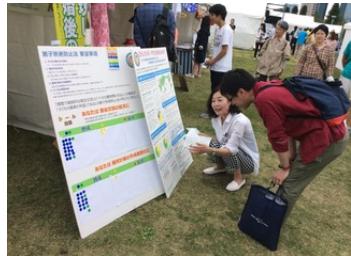
## グローバルフェスタ ～会場の雰囲気～

会場は老若男女人種問わず多くの人が訪れており、熱気が溢れていた。様々な国際協力機関や NGO、NPO などが集い、個性的で素敵な展示を各々に展開。日本国内ではここでしか手に入らない、少数民族の手作りのアクセサリーや特産品を買い求めたり、各国の料理が楽しめるのもこのイベントの魅力の一つだ。また、イベントならではの雰囲気というのでしょうか、チラシ配り一つにしても快く受け取っていただいたり、リザルツのブースで真剣に話を聞いてくださる方も多くいらっしゃった。私が学生のインターンであることをお話しすると、「頑張ってね！」と温

かい励ましの声もたくさんいただいた。



みんな気合に満ちた表情だ。



この声援を明日の活力にして、今後のインターンも頑張ろうと思う！

2017年10月02日

### グローバルフェスタ(ボランティアさん)

今年のグローバルフェスタもボランティアさん達の活躍で無事に終わった。



### グローバルフェスタ(まとめ編)

9月30日、10月1日は両日ともお天気に恵まれて、来場者数はなんと12万人とのこと。

9月30日朝、ブースを飾るパネル、写真や皆様にお配りする大量のチラシなどをお台場の会場に運ぶため、事務所に寄り、3人でタクシーに乗り込んだが、荷物が多いためトランクが閉まらない状況だった。会場に到着し皆さんに気持ちよく訪れていただけるように考えながら、手分けしてブース設営を行った。



ブースの一部では親子ネットさんが例年のように、アンケートを集めていて、スタッフやボランティアの皆さんには思い思いの場所に散って、精力的にチラシを配った。2日間で持参したチラシはすべて配り終え、スタッフ、ボランティアの皆さまの努力は素晴らしいだった。



### ご支援ありがとうございました

ケニア食堂の実現のため行ってきたクラウドファンディングは、目標額を上回るご支援を頂き、

9月29日に終了すること  
ができた。これまでご支援  
下さった皆様、情報の拡散  
や、その場を提供して下さ  
った皆様、陰ながら応援し  
て下さった皆様、皆様から



のご支援のお気持ちとともに、ケニア食堂の準備を進めていく。また、進捗状況など、適宜ご報  
告させていただきたい。

ケニアでは、5歳未満のこどもの4人に1人は、栄養不良により発育に問題を抱えています。毎年7000人の乳幼児が結核に感染し、なかには命を失う子どもたちもいます。結核予防にはワクチンが有効ですが、栄養バランスの良い食事が欠けるとワクチンの効果は十分に発揮されません。そこで日本リザルツは、貧困のため進学できず、栄養に関する知識のないスラム街に住む10代の女の子を対象にケニア食堂を開店します。家族の健康を守るために何を食べたらいいのか、一緒に調理をしながら実践的な知識を学習します。

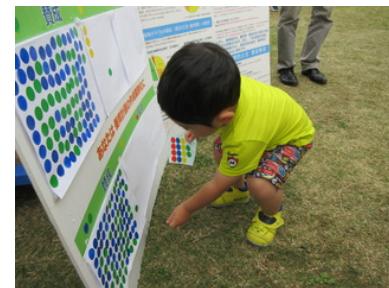
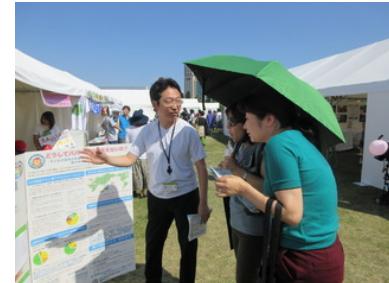
## グローバルフェスタ参加

先日の土日は、グローバルフェスタがお台場で開催された。

両日、大賑わいで、たくさんの方とお話しすることができた。親子ネットさんのお手伝いもして、アンケートを実施した。

お子さんもアンケートに興味を持ってくれた。

国際協力関係のイベントということで、日本における離婚時の問題について、あまり知らない方もいらしたが、中には国際結婚をしていて日本との違いを実感していた方、ニュースで聞いたことがある方もいらした。離婚時に会えなくなってしまう親子がいることや、子どもの養育（養育時や面会交流など）について決めなくても離婚できてしまう現状を、少しでも多くの方に知ってもらいたいと思った。高校生や大学生とも話す機会があり、今月開催予定の親の離婚を経験した子どもたちのグループワークについても、案内することができた。



## 釜石生活 100 ～釜石新聞～

9月30日（土）の釜石新聞に広告を出した。

いよいよ、今週の木曜日から、「くまモン・かまリン塗り絵展覧会」が開催される。9日には、イボンヌ・チャカチャカさんと、野田武則 釜石市長をお迎えして、10時からセレモニーもとり行う。



2017年10月03日

## アクションリーダーシップミーティング 二日目

今日はホテルニューオータニで、各国リザルツの重要なポストにいる方々とのアクションミーティングに参加した。日本リザルツからは代表の白須と浅松が参加！非常に重要な会議なので本当はインターの私は参加できないが、貴重な機会ということで、浅松も参加させていただいた。  
今後のリザルツの方向性について真剣に語り合う会議となつた。



白須代表もしかして、今日ケーキ来るの知ってました？(笑)



ホテルニューオータニのスカイラウンジの景色も素晴らしい会議の内容も充実していて満足した。



2017年10月04日

## アクションミーティング 三日目

本日も引き続きホテルニューオータニで会議している。

～今週のアクションミーティングの流れ（おさらい）～

10月2日 1日目 アフリカでの活動について

10月3日 2日目 ディレクターズ会議

今日、三日目のアクションミーティングは美味しい朝食付き！温かいコーヒーを飲みながら、

昨日の会議の振り返りや、今後の活動のことなどを話し合った。



各国リザルツ全員からひとりひとり自己紹介も。



各国リザルツのスタッフも日本での会議をとっても楽しんでいるようだ。



GGG+フォーラムはもう間近！アクションミーティング、  
GGG+フォーラムの準備と忙しい日が続くが、日本リザルツ  
のスタッフ全員、精一杯頑張っている！



2017年10月05日

### 10月5日 アクションミーティング 振り返り

アクションリーダーシップミーティングの中でも、特に印象残った10月5日の会議について振り返ろうと思う。この日は財務省の方をお招きし各国リザルツのリーダーとADBに関して様々な意見交換をした。財務省の方と意見交換をするという非常に貴重な機会だったので、各国リザルツのリーダー達もかなり気合が入っており、議論は白熱。私は初めての司会・進行役だったのでとっても緊張! しかも英語での会議なんてなおさら!事前の準備と経験を積もう!と改めて実感した。



2017年10月06日

### 【くまモンの折り紙傘】

素敵な折り紙傘。青葉通り相談室へ来室された方からのプレゼント。温かいお気持ちにハートがホッコリする。



### ケニア事務所の模様替え

日本リザルツケニア事務所は、ホテルの会議室の1室をお借りしている。建築会社の方、カンゲミスタッフなどが、必要に応じて立ち寄ってくださる。今日もこれからお客様をお迎えするので、事務所内のレイアウトを少し変えてみた。日本リザルツ新聞などをホワイトボードに掲示するとともに、パンフレットの位置も見やすいように工夫した。ケニア産のバラも添えて。



## 「くまモン・かまリン塗り絵展覧会」始まる

10月5日より、「くまモン・かまリン塗り絵展覧会」が始まった。

開催場所は、イオンタウン釜石のイベントスペース。空間にパネルを設置して、塗り絵を1枚1枚丁寧に貼りった。1000枚近くの「かまリン」は圧巻だ。早速、たくさんの親子がご自分の作品が展示された「塗り絵展」を見にいらした。イオンタウンにお買い物に来られた方も立ち寄ってくださり、ひっかりなしにお客様がいらっしゃり、うれしいことだ。

園児の皆さんには、自分の塗り絵を見つけては誇らしげにパパ、ママに「〇〇ちゃんが描いたかまリン、あったよ！」と報告して記念撮影などされていた。

釜石での「くまモン・かまリン塗り絵展覧会」は、親子の楽しく温かい交流時間を作り出すきっかけにもなっている。



2017年10月07日

## スラムでの事業例を参考に

我々が結核予防・啓発活動を行っているナイロビ市内のカングミ地区は、貧困層の多いスラム居住区で、保健、教育、生活環境面でも多くの課題を抱えている。ナイロビにはこのようなスラム街が他にもいくつか存在している。世界最大ともいわれるキベラをはじめ、何十万の人々が暮らす人口密集地がいくつかある。

その中で2番目に人口が多い(約60万人)マザレスラム街で、3年前に日本のNPOが「民族間の対立抑止のためのコミュニティ平和構築事業」を実施した時の活動報告書が目に留まり、同じスラム居住区での活動で、どのような対策、運営を行っていたのか、何か参考になる事柄があればと思い読んでみた。対象分野やスラムの内容は異なり、一概に比較はできないが、参考になりそうと思われる点もあった。平和構築の具体例としては、犯罪防止、民族間対立の抑制等が含まれている。まず、地域住民の中で活動の担い手となるリーダーの育成。各関連先組織(コミュニティ・行政・学校など)間のネットワーク構築。活動に携わる人たちの経済的自立。住民同士及び住民と活動組織との信頼関係。これらの基礎要件を固めたうえで、最終的には自立した組織、制度・規範・約束事に基づく運営で、持続させていく。この事業で、これらが全て上手く達成出来たかは分からないが、目指す方向はかなり似ているように思う。これから予定されている2

期目の活動に活かしていければと考えている。

2017年10月08日

### GGG+フォーラム 2017 準備

ここ最近はイベントの準備に大忙し。参加者の名札づくり、会場の配置決め、アポ取りなどなど、分担・協力しながら業務をこなす毎日だ。今までではイベントに参加する側だったので、主催する方がどれほど苦労されて準備してきたのかを身をもって知った。



忙しいと忘れてしまいそうになるが、何のために、誰のためにこのイベントを価値あるものに導く必要があるのかを、常に頭に置きながら励んでいきたいと思う。

2017年10月09日

### くまモン・かまリン 塗り絵 展覧会

釜石の子どもたちと国内外の子どもたちの想いがつながり、地域の人々との心がつながる場となるよう、全国各地、さらには海外の子どもたちによって色とりど



りに作り上げられた被さい地キャラクターのくまモン、かまリンの展示会を開催した。

東日本大震災から6年半になり、被さいした人々の抱える問題が見えにくくなっている。そこで、リザルツは釜石で、そうした人々の相談の場を設けている。展覧会には、南アフリカの歌手であり、釜石応援ふるさと大使のイボンヌ・チャカチャカも訪れ、その歌声で釜石の人々を勇気づけた。



## MALARIA KILLS 41 AS DEATH TOLL EXPECTED TO RISE IN BARINGO, KENYA

Malaria has so far claimed over 41 lives in Tiaty sub-county, Baringo County since its outbreak two weeks ago, with the majority being children under five years. The deaths have so far been reported in Silale (nine), Kolowa (15), Akoret (seven), Kongor (five), Rotu (one), Lokis (four).



Tirioko Ward MCA Sam Lokales said the majority of patients from this area are dying because treatment is coming too late.

**"The number of deaths in my area is quite high. We need an urgent solution before things get out of hand," said the MCA.**

To contain the situation, he asked the county to set up medical camps in Kogir, Chesawach, Rotu and Lokir so that patients in far-flung areas can access critical medicare in good time. He pointed out that the high number of malaria patients diagnosed in the sub-county has overstretched Chemolingot, a major health facility in the area.

The hospital has a capacity of 12 beds, yet there's a high flow of patients suffering from malaria and other ailments. Lokales further asked the Ministry of Health to supply mosquito nets and enough antimalarial drugs to curb the disease. A senior medic at the hospital said there are no sufficient beds and the ones available are also not of good standard. "Patients suffering from various diseases are admitted in the same ward, a situation which can easily lead to spread of infections," said the officer. According to the medic, the hospital was upgraded under devolution despite it not meeting standards of a sub county hospital. The hospital he said is not equipped with adequate

modern medical services for a sub county hospital. **"Look at how the wards are set up, we have patients suffering from burns in same ward with children, this is an issue that can cause spread of deadly infections,"** said the officer. A visit by Sunday Standard at the hospital showed a desperate situation with critically ill children sharing beds with sick adults.

The wards were also congested leading to poor ventilation in the facility. Majority of patients diagnosed with malaria were being discharged because of lack of bed space.



## 初めての訪日

ケニア最貧困地エスンバ村で「スナノミ症」の予防と治療に取り組んできたEdwardが、10月10日東京で開催されるGGG+フォーラムに出席するため、日本に行くことになった。この取り組みには日本リザルツも、全面的に協力しており、全国から届けられた数多くの靴を、エスンバ村に届けている。このフォーラムでは、感染症対策、貧困問題、人間の安全保障、子どもの健康改善、女性のエンパワーメントなどについて、様々な分野の方々と議論を交わし、グローバルヘルスの改善を促進するものだ。ただ、Edwardが渡航するための手続き(パスポートの取得)ではかなり苦戦した。9月からケニアのパスポート取得手続きのシステムが変わり、運用面やシステムそのものがダウンしたらしく、混乱が生じていた。最終的にイミグレーション・オフィスが閉館する直前に受け取ることが出来、本人はもとより我々も安堵した。日本に無事着いて、フォーラムや滞在中の活動で、来日目的を十分果たしていただきたいと願っている。



2017年10月11日

## スワヒリ語のメッセージカード

ケニア結核プロジェクトでは、80名のCHVと共に活動を行っている。月例報告書をカンゲミヘルスセンターに毎月提出するなど、カンゲミの結核根絶に向けて尽力している。本日は、そんなCHVたちの活動に敬意を示し、今後も一緒に活動に取り組んでいきましょうとの気持ちを伝えるため、メッセージカードを作成した。現地スタッフに翻訳してもらい、スワヒリ語に初挑戦。疲れをとる少しばかりのキャンディを添え、カンゲミヘルスセンタースタッフに託した。喜んでくれることを願うばかりだ。



## HEALTH CRISIS STILL LOOMS AS NURSES STRIKE HITS 130 DAYS

With the health facilities in the country facing major service problems, the strike by Kenyan nurses does not seem to be ending any soon.

The nurses have been on strike for the last 130 days, and have insisted that they will not go back to work unless their demands are met. The nurses, through their officials, demand a 200 percent salary increment, better working conditions, and improved healthcare infrastructure in the Kenyan health facilities.

The county governments, which now control the health function, have been at pains to curb the situation, and solve the problem that is facing the millions of sick people who visit Kenyan hospitals. Only last week, a malaria outbreak killed 40 in Tiaty sub-county, with the absence of the nurses making the situation even worse.

Patients admitted in hospitals have borne most of the brunt of the strike, with hundreds reported to have died since the strike began, owing to lack of care. With the heightened political atmosphere in Kenya at the moment, the strike is far from being called off.

## GGG +フォーラム 皆様 ご参加ご協力ありがとうございました

本日、GGG +フォーラム が無事に終了した。

当日は官公庁、企業、国際協力団体、学校など様々な分野から多くの方が参加し、意見を交換する非常に素晴らしい機会となった。



GGG+フォーラム当日の朝を振り返ってみると、日本リザルツのスタッフ・ボランティア・インターンは総動員で、当日の看板準備、資料準備、名札並べ・受付準備と…GGG+フォーラムが始まる前から大忙し!!!!



当日、多くの団体の皆様がお手伝いに駆けつけてくださいました。



今回は官公庁、企業、国際協力団体、学生などの垣根を越えた多くの方のご支援・ご参加があり、今回のGGG+フォーラムの成功が実現した。



昨日、10月10日はGGG+フォーラムが開催された。  
当日は、一同総出で会場準備。

当日のボランティアさんや他の団体さんからもお手伝いいただいた。

当日の朝に座席の変更など、バタバタして、ご迷惑をお掛けしたところもあったかと思うが、400人規模の会議を当日まで数人のスタッフで準備し、ボランティアさんや皆さんサポートのおかげで無事に終えられて、ホッとしている。



また、来場してくださった方が、満足していただけるように準備ができたことと願っている。



## 【こころの相談会（養育相談会）のお知らせ】

釜石市保健福祉部子ども課委託事業『被災した子どもの養育相談支援事業』

こころの相談会（養育相談会）の開催をお知らせする。

《カウンセラー》

国立大学法人岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 特任准教授 臨床心理士 佐々木 誠 氏



## GGG+フォーラム 2017（先生方に感謝編）

GGG+フォーラム 2017 開催日は 10 月 10 日。

衆議院議員選挙公示日にも関わらず、忙しい合間を縫って、多くの国会議員、前・元国会議員の先生がお越し下さった。

堀井巖外務大臣政務官からはご挨拶をいただいた。



元厚生大臣、初代ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟会長津島雄二先生。

ご自身の長年にわたる国際保健への取り組みや政治活動を踏まえたお話を聞いてくださいました。



参議院議員谷合正明先生。公明党 SDGs 推進委員会の座長をされている。「誰一人取り残さない社会（SDGs）」を日本が率先して目指していくことへの重要性についてお話をされました。



参議院議員川田龍平先生。ご自身のHIV感染の経緯を踏まえ、保健分野の更なる拡充を訴えた。



郵政大臣などを務められた自見庄三郎先生。医師としての立場から、UHC と SDGs の実現に向けた取り組みについてご意見をいただいた。



また、日本—AU 友好議員連盟会長の逢沢一郎先生からは祝電を、日本—AU 友好議員連盟会長代行の三原朝彦先生と公明党の参議院議員佐々木さやか先生、真山祐一先生からは、メッセージをいただいた。  
衆議院議員選挙公示日のお忙しい中にも関わらず、多くの先生のお力添えをいただき、スタッフ一同本当に感謝している。

[ブックマーク](#)

### GGG+フォーラム 2017 「UHC と SDGs の実現に向けて」～会場の様子～

世間は選挙公示日で盛り上がる中、先日行われた GGG+フォーラム 2017。会場には 400 人以上の参加者たちが集い、非常に賑やかで活気に満ちていた。各団体・個人が多種多様な背景をもつ人と積極的に交流していただきたいと思い、SDGs の 17 項目を基にグループ分けをした。先日のブログに引き続き、臨場感たっぷりの写真で会場の様子をお伝えする。





Heather Small の「Proud」を披露してくれたイボンヌさん。アフリカの歌姫の力強い歌声に拍手喝采！

LIXIL さんからご紹介いただいた簡易トイレ。事業を通じた支援は途上国の経済にも効果的  
パネリストの議論を真剣に聴く  
参加者



## 第2部マラリアのプレゼン後

「プレゼンを聴いて未来に希望が持てた人ー？」

「はーい！」

会場全体で明るい笑顔が多く見られた

参加者は各企業の重役から研究者、NGO や NPO 団体、国連職員、  
学生になど多岐に渡り、普段接することのない方との交流もできる大変貴重な機会だったと  
思う。このイベントを通して参加された皆様が、少しでも価値のある体験や情報、出会いを得られたなら幸いだ。



## GGG+フォーラム 2017（特別会合編）

今年の GGG+フォーラムは盛りだくさん。

11:00-15:30 からの本会合の後、主な参加者が出席し、特別会合が開かれた。ゲストは和泉洋人内閣総理大臣補佐官と、岡本薫明財務省主計局長。和泉内閣総理大臣補佐官は、本会議でもご挨拶いただいた上、わざわざ夕方にもお時間を作ってくださいました。また、岡本主計局長はお忙しい中、ルポール麹町に駆けつけて下さった。会議では、GGG に加え、ポリオ、マラリア、栄養、トイレ、SDGs など様々な分野について、闘争的な意見交換がなされた。

熱氣あふれる議論の様子を柿木カメラマンの写真でお届けする！



最後は岡本主計局長と皆さんで記念撮影！国際保健分野に関して具体的な議論ができ、実のある特別会合となった。

## GGG+フォーラム 2017 「UHC と SDGs の実現に向けて」

10月10日、GGG+フォーラム 2017 「UHC と SDGs の実現に向けて」が開催され、様々な人々が立場の違いを越えて、保健や衛生、栄養といった幅広いテーマについて話し合われた。国際機関、政府機関、民間企業、研究者、財団や民間団体、NGO、NPO、学生といった多様な背景を持つ参加者が400人以上、一同に会した。

スピーチの中では、マルチパートナーズとして、組織の垣根を越えて、目標に向けて活動していく必要性が何度も強調された。「企業による保健衛生にかかわる活動の紹介が目新しかった」「現在、水の分野について特に学んでいる」という、終盤の学生からの発言が印象的だった。



## 釜石の人々に寄り添って～イボンヌ・チャカチャカ氏三度目の釜石訪問～

10月9日、釜石応援ふるさと大使のイボンヌ・チャカチャカ氏が、三度目の釜石を訪問して釜石の人々と交流した。最初に訪れた常楽寺で、イボンヌ・チャカチャカ氏は、東日本大震災で亡くなつた方に献花を捧げた。豊穣のお祭りとして、釜石の伝統的な獅子踊りに遭遇したイボンヌ・チャカチャカ氏は、地元の人々と触れ合い、その歌声を披露した。新しく建設された鵜住居小中学校を訪問したイボンヌ・チャカチャカ氏は、公的な医療施設が倒壊しなかつたことから、最初に小中学校が優先して建設されたことに、子どもたち、またその教育を大切にしていることに対して、深く共感の意を示した。

2019年に、ラグビーワールドカップが開催される予定の釜石市は、被さいを経験した熊本市や神戸市とともに開催予定地の一つとなっている。イボンヌ・チャカチャカ氏は、ラグビーワールドカップでその歌声を披露する予定となる、釜石鵜住居復興スタジアムの建設予定地を訪問した。新しく建設された鵜住居の復興住宅において、イボンヌ・チャカチャカ氏と住民の交流が図られた。高齢の方が多く住んでいる。復興された公的な住居も集合住宅だけではなく、訪問した鵜住居では戸建ての住まいだ。公的な戸建ての復興住宅は、地方自治体と住民が話し合って地域ごとにデザインしている。イボンヌ・チャカチャカ氏は、復興住宅が建設中であることや、他の地へ移転した人々もいること、移動することが難しい人のことなど、町の様子を熱心に聞き入っていた。釜石市では、堤防を建設したり、海岸から距離のある場所に新しい道路を建設したり、高台を人工的に造って移住したりと、様々なインフラ面での防災対策が進められていた。

10月10日には、くまモン・かまリン塗り絵展覧会がイオンタウン釜石において開催された。

イボンヌ・チャカチャカ氏は、色とりどりの塗り絵を鑑賞し、訪れた子どもや家族と触れ合った。展覧会の式典では、「被災した子供の養育相談支援事業」についての紹介の後、野田武則釜石市長による、釜石の子どもたちに世界中から想いが寄せられたことへの感謝と、釜石から世界の子どもたちに想いを馳せることが述べられた。イボンヌ・チャカチャカ氏は、「これだけの想いが寄せられていること、私を含む支援者がいることを覚えておいて欲しい。お互いに助け合いましょう。」と述べられた後、その素晴らしい歌声を披露した。式典で園児からイボンヌ・チャカチャカ氏に送られた似顔絵は、本当に上手に描けていて素敵だと喜びと感謝を伝えた。式典の後には、自由に塗り絵に参加した人々が、思い思いに色を重ね、一枚、また一枚と作品が展示に加えられていった。

2017年10月12日

#### GGG+フォーラム（写真編）

GGG+フォーラムでのスピーカー／パネリストの皆さんを紹介する。（敬称略）

渋谷健司 東京大学大学院 医学系研究科 国際保健政策学教室教授



浅野茂隆 日本リザルツ理事長



堀井巖 外務大臣政務官



和泉洋人 内閣総理大臣補佐官



ロイス・クズワヨ 南アフリカ共和国臨時代理大使



池田千絵子 厚生労働省 総括審議官



津島雄二 元厚生大臣、ストップ結核パートナーシップ推進議員  
連盟の初代会長



谷合正明 参議院議員



川田龍平 参議院議員



北岡伸一 JICA 理事長



長谷川閑史 武田薬品工業 相談役



和田守史 栄研化学株式会社 代表取締役社長



山崎慶三 大塚製薬株式会社 医薬品事業部 抗結核プロジェクト グローバルプロジェクトリーダー



國井修 グローバルファンド日本委員会 戦略・投資・効果局長



北島千佳 GAVI アライアンス 資金調達担当上級マネージャー



黒川清 グローバルヘルス技術振興基金(GHIT ファンド)代表理事・会長



アンドレ・ドーレン Senior Strategist, External Relations Chair, GPEI



山口郁子 Senior Advisor, Resource Mobilization & Advocacy, Polio Eradication Programme Division, UNICEF



小林宏明 国際ロータリー 日本事務局長



イボンヌ・チャカチャカ プリンセス・オブ・アフリカ財団創設者



山田英也 JICA 上級審議役



焼家直絵 WFP 日本事務所代表



ビビ・ギヨセ FAO 栄養政策・プログラムチームリーダー



根本巳欧 UNICEF 東京事務所副代表



渡辺鋼市郎 栄養不良対策行動ネットワーク代表



リタ・バティア 国際栄養コンサルタント



アンドリュー・シール ロンドン大学栄養ユニット シニア講師



鈴木秀生 外務省地球規模課題総括審議官



山本尚子 前厚生労働省 総括審議官



尾身茂 独立行政法人 地域医療機能推進機構 理事長



狩野繁之 国立国際医療研究センター研究所 热帯医学・マラリア研究部長



西本麗 住友化学株式会社 代表取締役兼専務執行役員



北潔 長崎大学大学院 热帯医学・グローバルヘルス研究科長



Patrik Silborn Senior Director Resource Mobilization at Asia Pacific Leaders Malaria Alliance (APLMA)



スリングスビーBT 公益社団法人グローバルヘルス技術振興基金(GHIT) 専務理事



戸田隆夫 JICA 上級審議役



水野達男 マラリア・ノーモア・ジャパン専務理事



エドワード・カチリ ケニア 現地 NGO 代表



アラン・ラギ ケニア KANCO(NGO)代表



春日桃子 日本リザルツ インターン



白石陸 日本リザルツ インターン



ジャック・シム 世界トイレ機関代表



木村泰政 ユニセフ東京事務所代表



富田健介 株式会社 LIXIL 常務役員渉外担当兼ソーシャルトイレット部部長



和田篤也 環境省 環境衛生・資源循環局総務課長



ケン・カールドウェル CEO, Water Aid International



石井澄江 ジョイセフ代表理事



自見正三郎 元郵政大臣



柏倉美保子 ビル&メリンダゲイツ財団 日本代表



小山万里子 ポリオ患者代表



阿部恒世 ポリオ患者代表



保富康宏 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 灵長類医科学研究センター長



楠本修 APDA 事務局長



ハナ・ボウエン ACTION ディレクター



## 28枚のイボンヌ

イボンヌ・チャカチャカさんが釜石を訪れたお話しは、他のスタッフがブログアップしているが、今回の

イボンヌさんの来釜にあたって、釜石チーム(青葉通り 子どもの相談室 新旧相談員)としては、「ぜひ釜石の”子どもたち”と交流してもらいたい」という思いや計画があった。そして事前に、「かまいし こども園」の皆さんに、イボンヌさんの似顔絵を描いてもらった。園長先生は「園児が描く似顔絵ですから、必ずしも美しい仕上がりではないと思いますけどいいですか?」とおっしゃいましたが、ほら!このとおり!28枚の素敵な絵になり、イボンヌさんにも、とっても喜んでいただけた。



「心が通い合うって、言葉じゃないんだなあ…」と、園児たちに教えていただいた。

## 【2017.10.8～10.9 イボンヌ氏 釜石市視察および『くまモン・かまリン塗り絵展覧会』セレモニー参加報告】

【くまモン・かまリン塗り絵展覧会】についてご報告する。

2017.10.8 イボンヌ氏  
釜石市視察



2017.10.8、釜石市立鵜住居小学校・釜石市立釜石東中学校敷地内より鵜住居地域を展望  
2011.3.11 当時の説明を受けるイボンヌ氏



鵜住居地域、『鵜住居神之沢鹿子踊』見学

常楽寺、慰霊施設にて献花および黙祷

釜石鵜住居復興スタジアム【仮】建設予定地、現況確認



2017年10月13日

### 心と向き合う

「青葉通り こどもの相談室」での私の仕事は今日が最後となった。

2015年10月、東京で「離婚と親子の相談室 らぼーる」を立ち上げ、2016年11月、釜石で「青葉通り こどもの相談室」を開き、夫婦、父母、親子、家族、子ども、それぞれが抱える心の問題と向き合ってきた。何ができるだろう、と振り返ると、中途半端なことばかりで、自身の力のなさに悲しくなり、申し訳ない気持だ。と同時に、たくさんの方々に支え励まされてきたことを改めて認識し、胸がいっぱいになる。

相談業務に携わっていると、相談者だけでなく、自身も含めて誰もが、外の世界では（家の中でも、しばしば）鎧を身にまとってがんばっている、と感じる。それは「自分の心が傷つかないように、辛い思いをしないように」防衛策としての鎧だ。重い鎧をまといながら、「もっと早く走ろう」「もっと頑張ろう」とするので、なお負荷がかかり、心が疲れ果ててしまう。自身もそうだが、そんなときは、鎧をおろし、リラックスするに限る。私が行っている、鎧を脱ぎリラックスする方法をお教えしたいと思う。

まず、深呼吸をして想像してみよう、自分の体が今、重たくて堅い鎧に覆われている。どんな気持ちがするでしょうか？そして、どれくらいの間、その鎧を身にまとってきたのでしょうか？

次に、鎧を脱ぐ。兜も外して、その重みを手に感じたりしながら。その鎧は自分をどんな痛みや怖れ、傷から守るために必要だったのでしょうか？自分の感覚や直感に聞いてみる。答えがなくとも構わない。浮かぶイメージを大事にしましょう。辛い気持ちがでてきたら一旦やめてもいい。このようなイメージワークは“自分の心に聞いてみる”、“自分の心と向き合う”ことですから、やってみるだけで意味がある。

仕事でも、学業も、そしてプライベートでも、結果を求められる現代人は、好むと好まざるとにかかわらず、心の鎧をまとい、毎日たたかいの世界に放り出されているようなもだ。鎧を脱いで心を軽く、自由に、解放してあげるセルフケアの方法を身に付けて、自分の心をメンテナンスすることで小まめにリフレッシュするようにしましょう。心が疲れ果ててしまう前に、心の声を聞いてみてください。自分の心と向き合うことをぜひ、習慣づけてみてください。心と体の健康があつてこそ、仕事のモチベーションも高まるというものですね。

### マラリア患者の実情

ケニアを含むアフリカのサブサハラは、自然環境から多くの疾病、特に感染症の被害を受けている。最近ケニアでは地方でのマラリアによる死亡者が報告され、感染拡大に警戒心が注がれている。予防、医療体制が未だ整備されてないところが多く、死亡者の増加と感染拡大に結びついている。医療施設では、病院やヘルスセンターの数が足らず、多くの入院患者がベットを分け合い、体の弱っている患者が、更に感染してしまう例も出ている。更に、昨年末頃から公立医療機関の看護師・医師・技師たちが2度にわたりストライキを行い、その影響を受け診察は勿論、薬の配布など患者にとって命に係わる事態が続いている。それをカバーしているボランティアの人たちがいるとの報道があり、我々が支援しているCHVの人たちが思い浮かんだ。このボランティアの人たちは多分専門的な知識、訓練は受けてなく、単なる手伝いかも知れないが、それでも地域のため、患者のためを思って手を差し伸べてくれたものと思う。CHVもその思いは抱いているはずで、瀕死の状態になる前の予防の大切さをより理解して、日々活動に携わってくれている。

### ケニアでの栄養教育事情

ケニアでは、日本でいう家庭科の授業はあまり一般的ではない。一部の高校でのみ選択科目として扱っており、その中でバランスダイエットや調理法の知識を学習する。そのため、運動を行っている人、健康に興味がある人などは、自分で本を読んで栄養に関する知識を得る必要があるとのこと。ケニアの栄養教育で使用されている資料を見ると、基本的には日本の栄養教育の内容と同じだが、文化に根差した知識が一部盛り込まれているのでご紹介する。

『ミルクは1日に2杯まで』；紅茶にたっぷりのミルクを入れる習慣があるケニアならではの説明。

『牛肉だけでなく魚や鶏肉も食べましょう』；牛肉が一番安く、魚や鶏肉が高級品のケニアの食文化を反映している。

## 前日準備

前日の周到な準備のおかげでフォーラムの運営がスムースに運べた。



2017年10月15日

## GGG+フォーラム(エドワード編)

「GGG+フォーラム 2017 : UHC と SDGs の実現に向けて」を開催した。GGG+フォーラム 2017は皆様のご協力もあり、400人を超える参加登録をいただき、大盛況のうちに終えることができた。今回は、エドワードのことについてお伝えする。

開催当日 10日の朝に成田に着いた彼は、すぐに会場に向かい「第3部：水と公衆衛生、トイレ、子ども・女性」の冒頭でスピーチした。

「日本でより多くのことを学びたい」と言っていた彼、会合中はスピーカーの言葉に耳を傾け、メモをずっと取っていた。



その後、特別会合にも出席、  
和泉洋人内閣総理大臣補  
佐官、岡本薰明財務省主計  
局長とも  
お会いした。



彼にとって、すごく刺激的な日本滞在になったと思う。

### アクションリーダーシップミーティングを振り返って

皆様のご協力があり無事に GGG+ フォーラムも終わったが、改めて GGG+ フォーラムの直前に行われたアクションリーダーシップミーティングを振り返ろうと思う。

ブログでもご報告していたが、10月3日から7日まで連日、アクションリーダーシップミーティングに参加した。アクションリーダーシップミーティングは、各国リザルツのリーダー達が集まりそれぞれの国の情報共有・課題点や今後の方針などを話し合う会議。インターンの私は本来なら参加できないような

重要な会議だが、「リザルツの活動などを知る非常に良い機会」ということで特別に参加させていただいた。この会議に参加して自分にとって大きく得たものを2つあげると、1) 言いたいことを短くわかりやすく伝えるということ。会議では時間も限られており、言いたいことを短くわかりやすく伝えるということは非常に重要だ。日本語でも難しいが、特に英語で伝えるということはもっと難しいと実感した。

#### 2) 司会・進行役の経験

わずかな時間だが、司会・進行役をさせていただいた。物事を進めるためには事前の準備と経験、そして効率が必要だということを強く学んだ。もちろん、この2つ以外にもリザルツの各国の活動や活躍など多くのことを学んだ一週間だった。貴重な機会に非常に感謝している。上で述べた2つは私が今回の会議で特に得たものもあり、これからもっとしっかり学んでいくべき部分もあると思っている。今回の会議での経験を踏まえて今後も頑張っていきたいと思う。



## GGG+フォーラム(印象に残った場面編)

10月10日のGGG+フォーラムは400人もの方が来場し、大盛況のうちに幕を閉じることが出来た。

ここからは印象に残った場面をご紹介する。



和泉洋人内閣総理大臣補佐官と長谷川閑史武田薬品相談役の面白いやり取りは、毎年恒例。



ストップ結核パートナーシップのルチカ・ディティウ事務局長のメッセージをグローバルファンドの國井様が読んでくださった。特に多剤耐性結核の抑止とインドでの結核対策の重要性を訴える力強いメッセージであった。

第3部は、世界トイレ大革命の発足式になった。



ジャック・シム氏はトイレ整備の大切さをユニークに紹介された。



UNICEF木村東京事務所代表、LIXIL富田様も世界トイレ大革命の必要性をアピールされた。



会議にはポリオ患者の方にもお越しいただき、小山様、阿部様はご自身の体験を基にポリオで苦しむ人がいなくなることを訴えられた。12月のUHCフォーラムのキックオフミーティングとして、GGG+フォーラムでは実りのある話し合いが出来た。



### 日本の省庁の方との意見交換会

10月5日、日本リザルツのパートナーであるアクションのメンバーと日本の省庁の方との意見交換会が開かれた。午前9時、日本の国際保健分野を担当する財務省、外務省、



厚生労働省の方を招き、それぞれの取り組みをメンバーに紹介していただいた。メンバーからも日本政府に対して、草の根レベルにまで行き届くような支援をしてほしい、栄養改善への取り組みにもっと寄与してほしいなどの要望が出されていた。午前11時からはJICAの戸田隆夫上級審議役を招き、JICAの取り組みを紹介していただいた。12月のUHCフォーラムの共同議長である戸田様は、アクションのメンバーにも大人気。メンバーから続々と質問が寄せられていた。

### 保健医療行政の改善を望む

先日のブログで、「昨年末頃から公立医療機関の看護師・医師・技師たちが2度にわたりストライキを行い、その影響を受け診察は勿論、薬の配布など患者にとって命に係わる事態が続いている。」とお伝えしたが、これらのストライキは、子どもたちへの予防接種にも悪影響をもたらしている。当地の新聞報道によると、ある地方の郡では5,000人以上の子供たちに予防接種が出来ない可能性が出ており、同郡の保健局長は「公立病院の予防接種プログラムが麻痺し、その対策として非政府機関に助けを求めている」と語っている。また、「公立病院に貯蔵されている薬を、郡内の私立の医療施設に移し、予防接種を行っている」とも述べている。特に、5歳未満の子供たちの多くは、これらのストライキの影響で、ポリオや

麻疹の予防接種を受けてない可能性が高いとのこと。

私たちが事業活動を行っているナイロビ市内のカングミスラムでは、CHVの人たちの研修場所のすぐそばに、小学校が有る。よくそこで休み時間などに元気に走り回る子どもたちを見るが、都市部と地方の制度、行政サービスなどに格差が有るようにも思える。エヌンバ村など地方の貧困地域では、スナノミ症の様な風土病対策に、行政の支援が届いていない地域が、いくつも有りそうな気がする。公的措置の不備を非政府機関が補う状況を早く解消することに、国、地方政府は更に取組んで欲しい。

2017年10月16日

### 親の離婚を経験した子どもたちのグループ

先日の日曜日に、親の離婚を経験した子どもたちのグループワークを行った。前半はコラージュをやり、後半でみんなの状況や疑問などを話し合った。コラージュとは、雑誌などの写真やイラストを好きに切り取って、画用紙に貼っていき1つの作品にするもの。作業が始まると、黙々とみなさん取り組んでいた。参加者の感想では、最初はどうやっていいか分からなくて難しいと感じたけど、やってみると意外とできて、できた作品に満足したというような声も聞かれた。



後半の話し合いでは、兄弟のことや親のことなどをそれぞれ話し、自分がどうやって乗り越えてきたかや、それぞれの体験を話した。話し合いでは、それが自分の考えを押し付けるのではなく、他の人の話を聞いて、自分でどうするかを考えてもらう材料にしてもらえたらしいという雰囲気で、和やかに時間が流れていった。途中で、美味しいケーキもいただき、これも好評だった。参加した人たちにとって、少しでも来てよかったと思ってもらえてたら嬉しい。

### 「ニュース」ガザ 困窮極める生活

日本リザルツは、国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしている。

本日の朝日新聞朝刊に「ガザ 困窮極める生活」と題した記事が掲載されていた。「電力危機が続いている、一日約4時間しか電気が使えない状況となっている。ガザの病院では自家発電で凌いでいるが、燃料がなくなり、医療機器の電気が止まれば、患者は死ぬしかない状況だ。下水処理場も稼働をほぼ停止し、浄水施設の稼働率も2割程度になり、飲料水にも大きな影響が出ている。」との内容。



UNRWA から清田先生が 10 月末に来日される。日本リザルツも UNRWA の事業を応援しており、パレスチナ難民の皆さんのが平和に暮らせる日が来るよう願っている。

2017 年 10 月 17 日

### 外務省訪問

本日、ケニアプロジェクト申請の件で白須さん、久保内さん、門井さんに同行し初めて外務省を訪れた。玄関口での物々しいセキュリティ・チェックと、往来する訪問客の多さに日本の外交を担う官庁の重さをひしひしと感じた。

2017 年 10 月 18 日

### 明日、ケニア食堂を開催します

ケニアの大統領再選挙の影響で延期していたケニア食堂は、明日、開催することになった。カンゲミにある Bethel Community Development School で女の子たちを集め、栄養教室の後に実践練習をかねて昼食を作る。知識を実生活に反映させるためにも、現地スタッフと相談を重ね、ケニアの食生活、地域性を活かした内容になっている。また次週には、栄養教育を複数の小学校で行う予定だ。1 回の授業だが、知識として定着するよう様々な工夫をしながら取り組んでいく。



### 全国から靴が！～第 2 波～

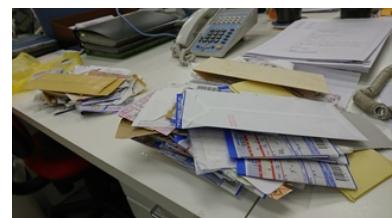
先月、日本リザルツの活動を全国各紙で紹介いただいてから、オフィスには問い合わせの電話が。宅配便の方にも毎日のように靴を届けさせていただいている。

ボランティアの藤崎さん。たった一人で何百足もの靴を整理している。彼女のおかげでこのプロジェクトも百人力だ！



部屋に入りきらず、机の下のスペースを利用。

御礼状を送るために住所録を作成。中にはメッセージカードや手紙もあり、心温まる応援のメッセージにいつも元気をもらっている。こうした手紙や問い合わせを通して、協力いただいている皆様の声を聴くことがスタッフのモチベーションにもつながっている。靴をお送りいただく際の手順も大変でありながら、真心と共に送ってくださる皆様に感謝している。



2017年10月19日

### ケニア食堂開催

本日、カンゲミにある bethel community development school にて、カンゲミスタッフ、CHV6名とともにケニア食堂を開催した。メニューは、ケニアの代表的な家庭料理ビーフシチューと、ニンジンライス、野菜炒め、そして、フルール。バランスダイエットの知識を伝えるために、炭水化物中心ではなく、緑黄色野菜やフルーツを用意し、その大切さを実践しながら伝えた。今回、実生活に反映させる工夫の1つとして、クラスに掲示するテキストを作成した。カンゲミでは教科書を購入できない家庭が多く、学校に掲示されている資料から学習するからだ。これが好評で、カンゲミヘルスセンターで開催されている母子保健の栄養教室でも使用したいとの意見もあり、テキストなど一式も贈呈した。



2017年10月20日

### 【支援者研修会のご報告】

#### 【支援者研修会のご報告】

釜石市保健福祉部子ども課委託事業の支援者研修会の開催結果をご報告する。

『講 師』 国立大学法人 岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 特任准教授 佐々木 誠 氏

『テーマ』 『傾聴』

## 『中妻地区生活応援センター』で開催

皆さんのが襟につけてついているのはアイスブレイク『名前当てゲーム』で使用したネームプレート  
序盤から笑顔あふれる研修会

途中、席替えも交えながら、座学だけでなく、傾聴に関わる体感的ワークも体験

今研修会に 12 名（保育園、特定非営利活動法人、傾聴ボランティア、行政の相談員等）が参加。

職種は様々だが、日頃から人の話を『聴く』ことに熟知された方々。体感的なワークもあり、五感全体で感じ取ることができ、皆さんワイワイと楽しみながら、アッと言う間に 2 時間が過ぎてしまった印象だ。

普段行っている【傾聴】という技術を改めて、深く学ぶことができた貴重な研修会であった。

今後の支援者研修会テーマとして、【トラウマ】と【喪失】を予定している。



## 新年度事業の最終説明

先日次年度申請(ナイロビ市スラム居住区での結核予防・啓発活動、第 2 期)の内容説明のため、前日に現地から戻り、外務省に伺いプレゼンテーションを行ってきた。外部審査機関での審査も漸く終了し、また同省ともこれまで何度もやり取りしてきたので、大方の内容については把握、理解いただいているものと考えていた。しかし、最後の説明でどのような質問や意見が出されるのか、しっかりと回答が出来なかった場合、同省の承認が遅れてしまうため、準備に気を使っていた。

プレゼンテーションには民間援助連携室長以下 4 名の方が出席され、こちらで用意した資料に沿って、事業の背景、前年度(第 1 期)事業の実績、次年度の事業内容、安全対策などについて説明した。事前に用意していた説明用のシナリオを使う予定でしたが、台本を棒読みしただけでは民間援助連携室の方々に、こちらの熱意が伝わらないと思い、配布資料の順番に概要を説明させていただいた。一通り説明を終え一瞬の安心感を覚えた。その後の質問では安全対策に関する

ことが取り上げられ、新たに国際情報機関からの入手手段を知ることができた。漸くここまでたどり着いた感じだが、同省の承認が得られれば次の審査に回される。これまでの申請手続きでは、対応に反省すべき点は大いにあった。今後最終的な承認が得られ、事業が開始された場合、運営・管理においては、無駄のないよう価値あるものにしていきたいと思っている。

2017年10月22日

### [ニュース]マダガスカルでペストが大流行

日本は衆議院議員選挙で大忙しかとは思うが、見過ごせないニュースが入ってきた。マダガスカルでペストが大流行しているそうだ。以下のニュース記事をご参照下さい。  
アフリカの島国、マダガスカルで、この夏から感染症のペストが流行していて、これまでに94人が死亡した。WHO=世界保健機関は、例年に比べて流行の時期が早く、人口が集中する都市部で感染が拡大しているとして、対策を急いでいる。WHOが20日、発表したところによると、マダガスカルでは、ことし8月以降、感染症のペストが流行していて、これまでに94人が死亡したほか、感染の疑いがある人は、1153人に上っているという。ペストは、ネズミなどの小動物からノミを介して広がる感染症で、発熱やおう吐などの症状が出て致死率は30%以上とされている。マダガスカルでは、3年前にもペストが流行して40人が死亡しているが、ことしは例年に比べて流行の時期が早く、首都のアンタナナリボなど人口が集中する都市部で感染が拡大しており、ヒトからヒトに感染し最も致死率が高い「肺ペスト」の患者が多くなっている。このためWHOは、保健師など2000人を動員して感染ルートの特定を進めるとともに、5000人分の抗生物質など医薬品を現地に送った。WHOは、マダガスカル国外に感染が拡大する危険性は低いとしたうえで、「抗生物質がないエボラ出血熱などとは違って、ペストは、感染ルートを特定し、抗生物質や予防薬を投与できれば、比較的早く感染の拡大を抑制できる」としていて、対策を急いでいる。

2017年10月23日

### GGG+フォーラム番外編（明日は世界ポリオデー編）

明日、10月24日は、ポリオワクチンを発明したジョナス・ソーク博士の誕生日にちなんだ「世界ポリオデー」。ポリオは感染し発症すると身体に「まひ」が残り、命を落すこともある恐ろしい感染症です。発症してしまうと治療法がない。今のところ、ワクチンを接種することが唯一の予防法で、今回は、そんなポリオについてまとめてみた。

#### ■ポリオとは

ポリオ（急性灰白髄炎）は脊髄性小児麻痺とも呼ばれ、ポリオウイルスによって発生する疾病。名前のとおり子ども（特に5歳以下）がかかることが多く、麻痺などを起こすことのある病気だ。主に感染した人の便を介してうつり、手足の筋肉や呼吸する筋肉等に作用して麻痺を生じること

がある。永続的な後遺症を残すことがあり、特に成人では亡くなる確率も高いものとなっている。

#### ■世界のポリオ

- ・発症国は、二か国のみ！ アフガニスタン、パキスタン
- ・2015年のポリオ確定症例数は、世界で72症例。
- ・しかし、今年8月ナイジェリアにて野生株によるポリオ患者発生。

#### ■日本とポリオ

1980年を最後に、日本では野生株による患者は見つかっていない。

#### ■ワクチンの種類

生ポリオワクチンと不活化ポリオワクチンがある

- ・生ポリオワクチン：経口接種、不活化ポリオワクチン：注射
- ・生ポリオワクチンには、病原性を弱めたウイルスが入っている。
- ・麻しん（はしか）や風しん（三日ばしか）のワクチン、結核のBCGが生ワクチン。
- ・不活化ポリオワクチンは、不活化した（殺した）ウイルスからつくられている。
- ・百日せきや日本脳炎のワクチンが不活化ワクチン。
- ・2012年9月1日から生ポリオワクチンの定期予防接種は中止、不活化ポリオワクチンの定期接種が導入。

#### ■接種時期と回数

生後3カ月を迎えたら4回接種

#### ■ポリオ議連について

正式名称：ポリオ根絶を目指す議員連盟

概略：2011年5月に設立。ビル・アンド・メリンダ・ゲイツ財団らと連携して、世界からポリオ根絶を目指す、保健医療分野の政策シンクタンクである一般社団法人JIGHを事務局とする、日本の超党派の議員連盟。

#### ■GPEI(Global Polio Eradication Initiative)について

世界保健機関（WHO）、ロータリー、米国疾病対策センター（CDC）、ユニセフが中心となって、世界中の子どもにポリオの予防接種を提供し、世界からポリオを撲滅することを目的とした世界規模の活動組織。

今回のGGG+フォーラムでは、ポリオも重要議題として扱いました。

WHO、UNICEFの双方の代表として、GPEIのポリオ広報統括をされているアンドレ・ドーレン氏がわざわざ日本に来られた。



UNICEF のポリオ部門で活躍される山口郁子氏。ポリオデーに合わせて UNICEF は、クリアファイルを作成された！国際ロータリーの小林宏明日本事務局長からもポリオ根絶に向けて、日本のワンプッシュの重要性が強調された。



日本のポリオ患者の方からも声が届いた。小山万里子様。



阿部恒世様。

2019年ポリオの根絶を目指して、GGG+フォーラムが良い起爆剤になることを祈っている。



### 子どもたちからのサンクスカード

先週、ケニア食堂を開催した際、子どもたちからサンクスカードをいっぱい頂いた。そのをご紹介する。炭水化物、たんぱく質、ビタミンなど栄養バランスのよい食事について学習



すると、「こんなごちそう食べたことがない」との意見もありました。貧困のため日々の生活に反映させることが難しい状況から、生活に定着させる工夫を継続的に考えていきたいと思っている。



2017 年 10 月 24 日

## Indeed, **REASONS FOR MALNUTRITION IN KANGEMI SCHOOLS**

onversations with students about if they have enough food at home or not confirmed the fears we had. Most students only get some food in school. Further, the food in school is NOT of balanced, and it is only one meal; lunch. Poor fee payment is among the major reasons why there is not enough food for the students.



Most schools prepare meals which do not conform to a balanced diet. This means, most students do not get a balanced diet, either at home, or school. This perpetuates the extremity of malnutrition in children, especially those under ten years.

The teachers, and parents, decry of poor economic times, whereby they cannot afford enough to buy food for their children. So, they just buy the little they can, which is cheap, just to sustain them.

A number of parents, especially those with little or no education, do not understand the essence of a balanced diet. They, therefore, do not know what it is, and how to cook it for their children.

Any successful campaign, or education, needs a constant reminder of the reasons for a balanced diet. Previously, such material as charts and sheets which students can see daily were missing. This time, we provided big banners for such a function.

The supply of quality food to low-income neighborhoods is limited to the cheap and low-quality foods only. Thus, it is difficult to have all the essential nutrients obtained with ease in Kangemi.

Most teachers have a lot of pressure to make the students perform. They, therefore, spend all time teaching academic content and forget about diet and nutrition. Students do not know what a balanced diet, thus, should be.

## NUTRITIONAL EVENT COMES TO AN END

The nutritional event that was started last week has ended on a high note today. Kenyan schools have also been closed following the impending repeat election. The nutrition event sought to educate and encourage students to take a balanced diet, and schools to prepare meals as such.



Lilian, who was heading the programme encouraged the teachers to insist on the parents to provide such meals for their children since a poor diet, will indirectly lead to poor performance in school, given that the brain may not develop well, or lacks nutrients for its optimum performance.



Of note in this school was the fact that some students were weak, a clear sign that they did not take enough food for the right nutrients. Students who had at least good balanced diet in their homes performed better, than those who didn't.

Again, students who lacked a balanced and enough diet were generally weaker and smaller in size of body. They could not play as often, and as long as those whose nutrition is sufficient and right.

### スタッフについて

リザルツスタッフの鈴木が本日、退職手続のため来所したので、記念品のガラス製品をお渡しし、皆で記念写真を撮りった。鈴木は、らぼーる事業の立ち上げ、厚生労働省の委託事業を遂行、釜石市のこども相談室の開所・運営など、4年間にわたり活躍してくれた。今後暫くはご自身のことにつけて使いたいとのことだが、今後も側面かららぼーる事業を応援してくださるとのこと。



2017年10月25日

### CHVによる栄養教室

10月23日、24日には、カンゲミにある3つの小学校の各クラスを回り、今回作成した栄養教材を使って合計450人の子どもたちに栄養教育を実施した。講師は、日本リザルツとともに活動を行うカンゲミ地区のCHV。カンゲミには1000人以上の子どもたちがいるため、多くの子どもたちが栄養に関する知識を早期から得られるよう、引き続き取り組んでいく。



## UHC と結核に関する漫画を描きました

日本リザルツに入って初日に厚生労働省に行ったり、GGG+フォーラムの準備に携わったり、様々な経験を積んでいる。ホテルニューオータニでのアクションミーティングに出席したり、、、。

人生で初めてのことばかりで戸惑うこともあったが、いずれの経験も非常に良い勉強になっている。そして、今日、日本リザルツでまた、人生で初めての経験をした。今日は人生で初めて漫画を描いた!

今年の12月にUHCフォーラムが行われるため、それに関してUHCと結核に関する漫画だ、ぜひ読んでみてください。

描き始めてから描き終わるまで内容を考える時間を含め、1時間半というリミットを設けて、一生懸命描き楽しかった。何をやるにしても、時間制限を設けてやるのってとっても重要だと、最近学んだ。



## 公正証書の作成

本日、公証役場に代理人として行き、先日行ったADRでの共同養育計画合意書を公正証書にした。

公証役場では、公証人の立ち合いの下、公正証書の文章を一字一字読み合わせ、お互いに確認した。この書類を作ることによって、少しでも子ども達の将来が、明るいものとなることを祈っている。

そして、離婚後も家族が激しくもめることなく、お互いに次のステップへ前向きに進んでいくようになれば嬉しい。また、離婚した後も、少なからず父母の間で、養育について話す機会があるので、そこをどのように乗り越えていくのかも重要なになっていくと思う。離婚後の関係の取り方についてのご相談も承っているので、そのような方のご連絡をお待ちしている。

2017年10月26日

## SDGsの共通項

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標(SDGs)では様々な国際目標が盛り込まれている。地球の資源に関わること、人間の生存・健康に関わることなど、これまでの文化・科学の発展がもたらした負の効果を修正することで、将来を見据えた適正かつ適性で持続性を備えた開発を推進していく、との理解もできる。

水産資源、簡単に例を上げれば食卓になじみの魚たち、今や日本だけでなく世界中で健康食材と

して注目される。乱獲で国際的な規制強化の対象となる種類も増えてきているそうだ。今ではMSC(Marine Stewardship Council : 海洋管理協議会、海洋の自然環境や水産資源を守り、持続可能な漁業によって漁獲された水産物であることを認証する機関)、ASC(Aqua-culture Stewardship Council:水産養殖管理協議会、MSCの養殖版)が世界的に認知され、消費者の環境・資源保護の心を更に掻き立てている。海の恵みを身近にしてきた日本人にとって、水産資源は長寿の要因でもあり、その減少は大きな懸念材料だ。

しかし途上国にとっては、水産資源よりも感染症の被害の方がもっと深刻な問題となっている。SDGsの目標にも、またサミットでも人間の安全保障が取り上げられ、その予防、発症抑止に向けた支援が唱えられている。水産資源にしても感染症にしても、一国又は特定地域の課題で済まされるものではなく、放置すれば世界中にその弊害が及ぶことになる。この共通の理解の下、各國、機関等が夫々の立場、事情を越えて協力、努力することが、大前提であることは言うまでもない。日本リザルツの活動も、日本政府への働きかけは勿論、世界的な基金、国際機関等にも、保健・健康分野の課題に対する改善、解決に向けた取り組みを訴えている。

2017年10月27日

### 【International linear Collider（国際リニアコライダー）】

2017年10月24日、ドイツ・マインツ大の斎藤武彦教授（原子核ハドロン物理学）による国際リニアコライダー（以降、ILC）の講演にプライベートで参加した。他職種交流が目的たが、想像を上回る愉快な講演で、アッと言う間のひと時だった。ILCは地下トンネル（全長31km～50km！）に建設される大規模研究施設。大型の線型加速器としては、世界唯一の最高、最先端の電子・陽電子衝突型加速器になり、その建設候補地に岩手県南部が挙がっているそうだ！！岩手県南部から宮城県北部に渡り、数十キロメートルの一枚岩盤があり、そのことがILC建設候補の大きな要因らしい。フランスとスイスの

国境にあるCERN(欧州原子核研究機構)にLHC(大型陽子衝突型加速器)という世界最大の円形加速器（周長27キロメートル）があり、2012年7月『ヒッグス粒子』が発見されたのは有名。電子と陽電子を光速に近い速度まで加速、正面衝突をさせると、宇宙誕生から1兆分の1秒後の状態が再現され、刹那、ビッグバンが出現し、『ヒッグス粒子』のほか、様々な粒子が発生。これらの粒子を観測することによって、宇宙の誕生や物質の誕生など、有史以来、未知であった謎が解明されるかもしれないらしい。加えて、加速器技術の応用範囲は、医療、生命科学、新材料の創出、情報・通信、計量、計測、環境、エネルギー分野等にわたり、我々の生活も大きく



進歩するとのこと。スマートフォンにもLHCの技術が入っているそうだ。建設が実現化すると、世界中からILCを建設する加速器の研究者、各種技術者が岩手県に集結することが容易に想像できる。研究が始まれば、約3000人もの研究者、その家族が移住し、大きく国際化にも結び付くとのこと。そのような環境は教育、文化の面にも影響し、東北の子ども達に大きな夢を与えるそうだ。建設に10年以上、研究に30年以上と言われ、未来の子ども達の笑顔に繋がる素敵なお話だった。

### 【こころの相談会（養育相談会）開催のご報告】

2017年10月25日 釜石市保健福祉部子ども課委託事業『被災した子どもの養育相談支援事業』こころの相談会（養育相談会）を開催した。

※個人情報保護のため、写真や詳細については掲載致しないので、ご容赦ください。

#### 《カウンセラー》

国立大学法人岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 特任准教授 臨床心理士 佐々木 誠 氏

相談される方々は、夫婦関係や育児の悩みや不安など、普段から心に抱えている問題や課題を話していく。こころの相談会では、おおよそ30分。そんなに短い時間で大丈夫ですか、と疑問に思われる方も多いいらっしゃる。当相談室では2時間以上、相談される方もおり、20分程度で話を終える方もいる。私個人の経験では、4時間以上話しを聴いた経験もあるし、私の顔を一見して笑顔で帰られる相談者の方もおられた。相談時間は、長い時間がいいのか？短い時間がいいのか？ 例えば『映画を2時間鑑賞すること』と『朝の連続ドラマ（15分）を8日間鑑賞すること』を思い描いてみてください。双方とも『観る』という共通の行為であり、同じ時間（2時間）を観ていが、なにか違和感を感じませんか？映画がお好きな方と朝の連続ドラマがお好きな方、世の中には色々な方がいらっしゃる。十人十色の感じ方（＝違和感）こそ、ご自身の中での『るべき時間』。

さて閑話休題、相談時間の話に戻す。当相談室においても、クライエントの『るべき時間』に合わせながら相談を行い、同時にクライエントに適した社会資源を提案している。つまり、30分でご満足できなければ、次回の相談会を予約するか、他の社会資源を提案するか、私が話を聞くということになる。

ここで不思議な現象が起こる。長時間話しされる方がいらっしゃったとして、毎回、数時間も話されるかというと、そうではない。来談回数が重なるにつれ、相談時間は短縮されていく。なぜでしょう？それは、悩みや不安を言葉に乗せ人に伝えることで、ご自身の中で悩みや不安が整理され、解消・緩和の手掛かりとなる『気づき』に繋がるからだ。相談員は話しを聴きながら、『気づき』のきっかけをほんの少しお手伝いしているだけ。誠に、心の悩みや不安を解消・緩和



に導くのは、誰でもない『クライエントご自身』ということなのだ。クライエントがその方の人生において唯一の主人公だから。

『青葉通りこどもの相談室』はクライエントを主人公として、相談業務を実施している。

2017年10月28日

## 本から学ぶ国際協力

今回は、途上国での国際貢献に興味のある方に是非おすすめしたい本を紹介する。

和田信明 中田豊一著 『途上国の人々との話し方 国際協力 メタファシリテーションの手法』（みずのわ出版、2017）

著者が国際協力隊員として、東南アジアのある村で活動していた時のこと。村人に、「この村の一番の問題は何か。」と尋ねた。村人は「清潔な水が手に入りづらいため、多くの人が病気になることだ」と答えた。そこで著者は村人と協力して井戸を掘るが、一年後に視察に来たときにはその井戸は錆びており、誰からも使われていなかった。実は村から1時間ほど歩いたところで清潔な水は手に入る。この村の一番の課題は「井戸を掘ること」ではなかった。このように、「なぜ」と尋ねると簡単に答えが得られるかのように思うが、それは相手の憶測の入っ

た主観的な意見になりがちである。本の題材ともなっているメタファシリテーションとは、事実のみを相手に問いかけ、その事実に基づいて地域の真の課題を見極める手法である。

途上国に行くと、大抵の地域ではすでに先進国から協力隊やボランティアが派遣されていて、何らかの活動が実施されている。しかし、それは現地の住民が主体的に行うものではなく、ボランティアたちによって与えられるため、住民たちはひたすら「誰かが何かをしてくれるのを待つ」という完全に受け身の怠惰な状態に陥ってしまう。私自身もケニアの村でボランティア活動をしていたとき、住民たちの受け身の姿勢が、その村に来たボランティアたちによってつくられているということが、一番の課題なのではないかと感じた。単に物を施す支援よりも、現地の住民たちと向き合っていくことはもっと難しい。

リザルツでのインターンで学んだ、「人を国籍や肩書きで判断せず、一人ひとりを大切にする精神」を忘れず、この問題と向き合っていきたい。



2017年10月29日

## [ニュース]ガザの医師、東京で平和訴え

日本リザルツは国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)のキャンペーン事務局をしている。

今日は、ガザに関する1人の医師の取り組みをニュースから紹介させていただく。

ガザの医師、東京で平和訴え =娘3人失う、「希望は失わない」=



イスラエル軍による2009年のパレスチナ自治区ガザへの攻撃で娘3人とめいを失い、執筆活動や講演で平和を訴えるパレスチナ人の医師、イゼルディン・アブエライシュさん(62)が27日、東京都内で記者会見した。戦争の悲惨さを強調し

「全ての人が平和のために立ち上がるべきだ。私は娘たちを失ったが、希望は失っていない」と訴えた。アブエライシュさんはガザ地区の難民キャンプで生まれ、産婦人科の医師としてイスラエル人の治療にも携わった。娘らが砲撃で犠牲になった当時の心境を「苦痛に満ちていた」と振り返り、信仰が支えとなったことを明かした。(共同)

折しも、UNRWAの清田明宏保健局長が週明けから日本でアドボカシー活動を実施される。こうした取り組みがきっかけでガザやUNRWAへの関心が高まるといい。

## 世界ポリオデー：ポリオ根絶に向けたGaviの役割

日本リザルツはGaviワクチンアライアンスのキャンペーン事務局をしている。

10月24日の世界ポリオデーに合わせて、Gaviがプレスリリースを行ったので、紹介させていただく。

## 世界ポリオデー：ポリオ根絶に向けたGaviの役割



10月24日の世界ポリオデーは、ポリオ根絶に向けての努力が大きく進捗していることを確認するとともに、ポリオで苦しむ子どもたちが新たに出ないよう何をすべきか、国際社会が考える機会となった。

Gaviは世界ポリオ撲滅推進計画(GPEI)と協力し、予防接種史上最も速いスピードで、ポリオ不活性ワクチンの導入を支援していく。GPEIとのパートナーシップのもと、我々はすべてのGavi支援国において、少なくとも一回の不活性ポリオワクチン接種が行われるよう支援を行っている。  
**4,000万人の子どもにワクチンを**

2016年末までに、54カ国がIPVを定期予防接種に組み入れる決定をし、うち16カ国が2016年に同ワクチンを導入した。Gaviの支援のもと、現在までに4,000万人の子どもたちが予防接種を

受け、結果 Gavi が支援する国々における IPV 接種率は 2015 年の 12%から 2016 年には 39%と 3 倍近く上昇した。しかし、IPV の導入が非常に速いペースでかつ大規模に行われているため、技術的な問題からワクチンの増産が難しく、供給量不足も生じている。ワクチン製造業者は 2016 年までに見込まれた供給量の 50%しか供給できず、幾つかの国において導入予定が遅れたり、接種プログラムが中断される事態を招いた。我々はポリオ流行のリスクの高い国々を優先し、ワクチンが滞りなく供給できるよう対処している。WHO の戦略アドバイザリーグループ (SAGE) は、ワクチンの供給量不足を緩和するため、導入予定の各国に対し IPV の少量接種への切り替えを考慮するよう提言した。バングラデシュ、インド、スリランカがこれを採用し、ワクチンの在庫切れのリスクを削減しながら予防接種を継続する。

#### 根絶のカギとなる定期接種

「我々は、この恐ろしい病気の感染リスクに曝される子どもが完全にいなくなるまで活動をやめることはできません。Gavi は GPEI とそのパートナーを強く支援し、ポリオのない世界を作るために協力を惜しません」

ンゴジ・オコンジョ・イウェアラ Gavi 理事長

2016 年 8 月に、ナイジェリア北部で野生株ウイルス由来のポリオ症例が 4 件確認され、世界的な根絶に向けての努力に水を差す結果となった。最後の感染が報告されたのがこの 3 年前だったため、ナイジェリアはまさにポリオ撲滅を宣言しようとしていた。また、同国はこの一年前に IPV を導入しており、2016 年には接種率が 49%に達した矢先のことだった。アフガニスタン、ナイジェリア、パキスタンが依然としてポリオの常在国だが、これにより目標としていたポリオ撲滅認定のタイミングが少なくとも 2 年延びることになってしまった（2018 年から、最速でも 2020 年）。ナイジェリアでのアウトブレークは、保健システムが脆弱で定期接種率が低いと感染症の撲滅は難しいということを改めて証明した。定期予防接種率を高めることでしか、この恐ろしい病気を根絶することはできない。日本リザルツも Gavi の活動によって、多くの子どもたちにワクチンがいきわたり、ポリオが根絶するよう応援していく。

#### 出国税：貴重な税収を一国の一セクター（だけ）に使用すべきではない

各メディアからの報道によれば、観光資源の財源確保のための「出国税」が 2018 年度税制改正大綱に盛り込まれる方向性となったようだ。訪日外国人ならびに出国日本人など国際線航空機利用者やクルーズ船利用者から「1 人 1000 円の徴収」が有力案のようだ。そもそもこの税制は「政府内などで制度の是非を巡る十分な議論も経ないまま唐突に浮上した」（10 月 27 日付日本経済新聞）という経緯があり、航空券連帯税との関係で問題点・今後の対応などを探っていく。

#### ●領土外の消費行為への課税は地球規模課題の対策に（グローバル化の負の影響も考慮し）

私たちは航空券連帯税を求めているが、もし国際線航空機利用を含む出国税を実施するなら、その税収を観光資源の確保（だけ）に使用するのではなく、世界の貧困や気候変動等のグローバルな課題に使用すべきと提言してきた。というのは、これまで国際線利用者に消費税が免除されて

きたのは、自国の領土外の消費行為であるためであり、その性格からして税収を自国の課題のみの使うべきではない。こうした考えは租税法のオーソリティーである金子宏東京大学名誉教授が1990年代から提唱していた（『人道支援の税制創設を 国際運輸に定率で』日経新聞 2006年8月6日）。

それだけでなく、今日国際的な航空網の発達というグローバル化に伴って負の影響が生じており、航空機利用者は一定コストを負担する必要性がある。負の影響とは感染症の地球規模の拡大や温室効果ガスの排出増などで、その対策費用の一部を払っていただくことだ。ともあれ、新しい税収による貴重な財源は、一国の観光という一部セクターのみに使うことは避けるべきと考える。

#### ●観光のための財源は実は余っている！？

ところで、今回の出国税構想は観光資源のための財源を確保することだが、実はその財源は十分に足りているという指摘があちこちからなされている。「観光庁を所管する国土交通省は、18年度の公共事業の関連予算で前年度比16%増の6兆円強を要求。北海道局だけでも空港予算は160億円に上り、訪日客の受け入れ整備に使う。観光目的とあらば仏像修繕から国立公園の整備、税関強化などあらゆる分野に適用が可能で水ぶくれの恐れが高い」（10月27日付日経新聞）

（17年度観光庁予算210億円、出国税税収予測410億円という金額を前提にして）「国家全体の観光関連予算は約3200億円ある。観光政策を推進する観光庁がこれら全体を統括できなければ、機能は発揮できない」と日本観光ホスピタリティ教育学会の鈴木勝会長が言っているが、実は観光関係予算は観光庁を含む国土交通省や農林水産省、経済産業省関連にもあるという。問題は観光行政の司令塔である観光庁のマネジメントがうまく発揮できていないところに問題がありそうだ。

実際、税収の主たる使途先となる地方の観光地の関係者は、「…中部地方の観光地の自治体関係者は『もともと外国人観光客を受け入れるノウハウや人材が足りない市町村は、予算を有効に使えないのではないか』と話す」（9月16日付東京新聞）という状況だ。また、東北インアットバウンド連合（仙台市）の西谷雷佐理事長は、「財源は必要なので否定はしないが、もっと有効な手法を探ってみるべきだ。世界的には行政に観光課がないのが一般的で、民間に委託されている。新しい税を徴収する前に、整理すべき予算や団体があるのではないか」（10月18日付河北新報）こうしたことから、「観光目的とあらば仏像修繕から国立公園の整備、税関強化などあらゆる分野に適用が可能で水ぶくれの恐れが高い」（同上日経新聞）とか「『観光立国』を名目に集めた税金が、地方の効果の薄い施策や公共事業に投じられる懸念も残っている」（同上東京新聞）という懸念が指摘されている。

#### ●受益と負担の関係が大きく乖離：出国日本人1700万人に受益なし

10月13日菅義偉官房長官は記者会見で、出国税につき「受益と負担の適正なあり方を勘案し、増加する観光需要に高次元の対応を行う観点から具体的な検討を深めていく」と述べた。この税制で受益するのは主に観光を目当てとした訪日外国人客で、出国日本人はほとんど受益しない。ところが、この出国税は、訪日外国人はもとより出国日本人からも徴収することになる。出国する両者のうち、日本人は約42%を占める（訪日外国人2400万人、出国日本人1710万人、2016

年）。また、訪日外国人のうちビジネス客は約20%を占める（2015年）。したがって、400～500万のビジネス客にも受益はない。

これでは「受益と負担の適正なあり方」とは程遠いと言えるだろう。

#### ●地球規模の課題の財源も射程に、引き続き航空券連帯税も要求

繰り返すが、私たちは貴重な出国税からの税収につき、一国の観光という一部セクターのみに使うことは避けるべきと考える。そもそも観光資源のための財源は十分にあるようだ（どうしてそれが有効に使われていないかの検証も必要だろう）。従って、観光庁が観光地の地元・関係者ならびに他省庁と協働・協議を行いつつ、あるべき観光インフラの整備等についてマネジメントしていくことが先決であるように思われる。

ところで、出国税が18年度税制改正大綱に盛られたとしても、実施するのは19年度のようだ。したがって、私たちはその間、1）いぜんとしてその税金が公共事業の水ぶくれ・無駄遣いになるという懸念が強く出されていることに対し、観光庁の検討委員会は真摯に検討すべきである、2）出国税を実施するとしてもその税収を観光資源の財源にのみ使用すべきではなく、グローバルな課題についても使用すべき、3）（地球規模の課題に使用しないとすれば、引き続き）パンデミック等が心配される感染症対策等を目的とする航空券連帯税を実施すべき、ということを要求していく。

3）につき、韓国では、観光目的のための出国税も航空券連帯税も実施しているので、十分実施が可能。

2017年10月30日

#### UNRWAの清田保健局長と財務省を訪問しました。

本日は来日しているUNRWAの清田保健局長と一緒に財務省を訪問した。私は、財務省を初めて訪問しましたが、財務省は歴史を感じさせる落ち着いた雰囲気の建物だった。財務省では、清田保健局長が難民問題などを説明した。またリザルツ新聞のガザ・パレスチナ特集号なども配布した。

難民問題は解決の兆しが見えない非常に厳しい問題だ。しかし、リザルツが行なっているガザの子どもたちの凧上げ・子どもたちの安倍総理表敬、釜石との交流など希望の光もあることをお伝えした。

ガザ・パレスチナの子どもたちのために活動する清田保健局長の話に、私も心を動かされました。私自身何ができるかわからないが、子ども達の笑顔のためにできることから頑張ってみたいと考えた一日だった。